

コピーライティングプログラム応用・取材・ライティング合宿

- プログラム概要 : 地域団体ツバメクロスアクションズの取材・インタビュー原稿・メッセージ開発
 実習先 : 新潟県燕市
 参加人数 : 3名
 学部学科 : 日本文学文化学科、環境システム学科
 実習期間 : 令和4年9月5日～9月14日
 本学担当教員 : 梅田大輔(教養教育リサーチセンター 客員講師)

取材・ライティング合宿を3年ぶりに実施

2016年から行っている新潟県燕市での活動は、ここ2年間はオンラインでの取材活動となっていた。今年度は久しぶりの合宿型の活動として開催。公益社団法人つばめいと様が運営するインターシップ学生宿泊施設「つばめ産学協創スクエア」に10日間滞在し、体調を崩すこともなく、コピーライティングプログラムが重視する取材とライティング漬けの日々を送ることができた。



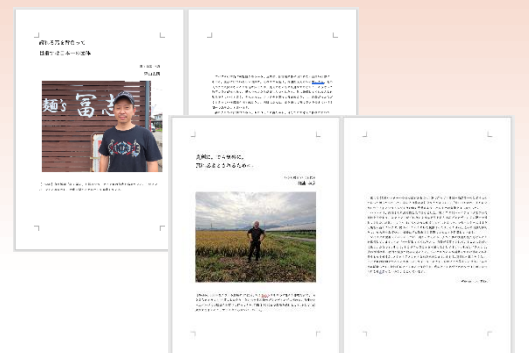
地域団体をインタビュー取材し、メッセージ開発

つばめいと様と連携し、産業振興・商店街活性化など、毎年、地域のニーズを組み込んだテーマで実施してきている燕での活動。今年度は、農業人、料理人、調理器具メーカーが分野を超えた連携で、燕の食文化を盛り上げている地域団体ツバメクロスアクションズに取材対象となっただき、メンバー9人の取材活動、文字起こし、インタビュー原稿制作、スローガン・ステートメント開発を行った。



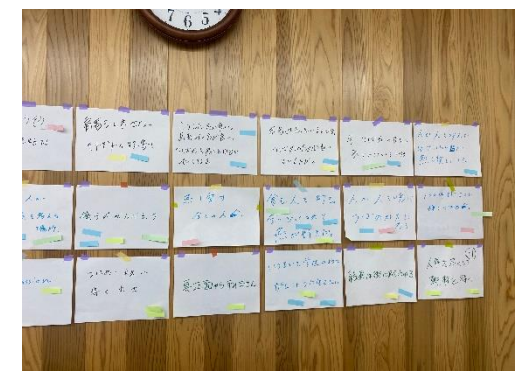
[制作物01 インタビュー原稿]

農業人、料理人、調理器具メーカーの社長、市役所職員など多様なメンバー9人に、1人約1.5時間の取材を行い、文字起こしを行い、それをもとにインタビュー原稿を制作した。講師による複数回の朱入れを受けての修正を経て9人分の原稿を完成させた。



[制作物02 スローガン・ステートメント]

メンバーからの取材内容をもとに、今度は団体のアイデンティティや想いを言語化するメッセージ開発を行った。分野を超えた人や企業が連携するツバメクロスアクションズの多岐にわたる活動はわかりやすく伝えることが難しく、そのアイデンティティや人格を捉えることにも学生は苦労した。130案以上のスローガン案を出し、幅広い方向を探った上で、発表会前日の深夜にようやくまとまった。



[制作物03 ツバクロな人 動画]

取材時にGoProによって撮影した動画を簡易的に編集し、9人の取材対象者を主人公とした15秒動画を作成した。

[制作物04 活動をサイトで発信]

自分たちで活動発信サイトを事前に立ち上げておき、10日間の活動、宿泊施設スクエアでの他大学の学生も含めた共同生活の様子を毎日発信した。

インプットとアウトプットのカ、両方の鍛錬

オンラインによる取材は多く経験していた今回の学生だったが、現地に赴いての対面取材を初めて経験することができた。多様な仕事の現場や人の熱量を五感で感じるインプット経験ができた。アウトプットは、量が質を生むという考えで多くの言葉を出しながら対話して思考を広げ、その上で一つのスローガン・ステートメントに集約させていく言語化のプロセスを体験した。ミーティングを重ねるにつれて、3人の対話力が高まっていくのを感じられた。

引き続き団体のパンフレット制作を進行

ツバメクロスアクションズの方、地域の方々、新潟大学の学生を迎えての成果発表会では、制作物を学生が読み上げて発表。代表の森山史朗様をはじめとする皆さんから「ツバメクロスアクションズらしさをよく言葉にしてくれている」とお言葉をいただき、学生は安堵することとなった。実際に使用する団体のパンフレット制作を引き続き連携して制作したいというお話をいただき、学外活動終了後も授業で表現のブラッシュアップに取り組んでいる。(令和4年12月にパンフレットは完成予定)学生のために尽力くださったツバメクロスアクションズの皆様、今回も充実した活動をコーディネートくださったつばめいと様、コピーライティングに全力で取り組んでくれた3人の学生に深く感謝したい。(講師 梅田大輔)

[連携先 公益社団法人 つばめいとさまから]

学生たちは成果だけでなく、取り組む姿勢を通じて、我々に驚きと感動を与えてくれます。長年のコピーライティングプログラムの皆様との協働によって、燕市の地域が「言葉の持つ力」を確実に実感しています。地域に新しい感覚を提供してくれる貴重な機会であり、今後も楽しみです。(公益社団法人つばめいと 若林悦子)



2022.09.08 23:53

燕滞在日記 4日目



世界の幸せをカタチにする。

あたりまえじゃない挑戦

「いつもせわしないね」
「だって燕が好きだっけ」

21時。ツバクロ会議は幕を開ける。
朝までかかっても、定刻にはまた本業へ
つばめを思うと口出ししたくなる
肩書きで表せないそれぞれの役割があるから
気がつけば、頭はいつも燕のことで埋まっている
「そうそうそうそう」おもしろいことに相槌も似てくる

燕のための行動は、比べることなく良いものだトわかる
だから made in 燕は世界規模なんだ
好きだからこそ熱くなれる人
不器用だけど一生懸命な人
燕の可能性を信じる人
いってらっしゃいと送り出す人

それを誇りに思わず、
その良さに、“今”気づかなくてどうする

本音で語り、本気で生きる
人と人が支え合うことで、交わらなかったはずの人がクロスする

人が人を呼んで、気づいたら皆が燕を愛していた
100年後、さらに輝く燕の未来に…

「乾杯！」

TSUBAME × ACTIONS

武蔵野大学6期コピーファイティングプログラム

発表したツバメクロスアクションズ スローガン・ステートメント

世界の幸せをカタチにする。



「つばめ産学協創スクエア」では、同じ合宿期間を過ごした新潟大学など、他大学の学生たちとの絆も深まり、「つばめいとLOVERS」が結成された。技術系企業へのインターンシップなど、多様な活動に参加している異分野の学生との交流も、重要な成長の糧であることを再認識した。